

牛久：学校周辺に見る自然

第9号 ひたち野うしく小

2012年5月19日発行

＜ 植物のすがた（春） ～園芸植物 ＞

4/24, 26, 5/1、ひたち野うしく小3年生との植物観察。今回は、人間が植えたり、そこから逃げ出して野生化した植物たちの紹介です。

もう花は終わってしまいましたが、観察当日は、門を出ると色とりどりのチューリップや菜の花などが咲いていました。むせるくらいの、強く甘い香りが漂っていましたね。



近所の方が植え、手入れもして下さっている花々。高さや色など、よく考えて配置されています。ありがたいことです。



門のところに咲いていたのは**アブラナ**ですが、観察した斜面に咲いていたのは、**セイヨウカラシナ**です。左に、校庭のアブラナとセイヨウカラシナを並べてみました。同じアブラナ科でよく似ていますが、どこが違うか、わかりますか？葉をかんでみると、その名の通りカラシナはからく、アブラナは辛くありませんが、放射能汚染の問題もあり、味見はさせませんでした。これから秋まで、いろいろな木の実、草の実が実りますし、葉にもスイバのように酸っぱいものなどいろいろあるのですが、残念でなりません。

アブラナ（左）とセイヨウカラシナ（右）。



さて、^{まえおき}前置きが長くなりました。アブラナ科なので、どちらも花弁は4枚ですが、アブラナではそれがほとんど十文字につくのに対し、セイヨウカラシナではどちらかという^{なれ}とH字形のようにつきます。これは、慣れないと難しいですね。一番^{かんたん}簡単な見分け方は、葉に注目することです。アブラナの葉にはふちにギザギザがなく、^{たく}茎を抱くようにつきますが、セイヨウカラシナの葉にはギザギザ^えがあって、^{くき}短い柄で茎につきます。



花のちがい（上）と、葉のちがい（下）。ともに左がアブラナ、右はセイヨウカラシナ。



オオアマナ：ヨーロッパ原産。

こんな、きれいな花も見つけてくれましたね。**オオアマナ**といって、^{かべん}花弁が6枚に見えますが、外側の3枚は、ガクにあたります。6本の雄しべも、^え柄が花びらのような形で変わっていますね。ヨーロッパ^{げんざん}原産で、^{かんしょうよう}観賞用に持ち込まれたものが野生化したようです。別名、「ベツレヘムの星」ともよばれます。



最後に、花だんの**チューリップ**。これも花弁6枚に見えますが、外側3枚はガクにあたります。雄しべは？ そう、6本。これらの^{とくちよう}特徴から、以前はオオアマナなどととも^いにユリ科のグループに入れられていましたが、最近の^{いでんし}遺伝子に注目した分け方で、ユリ科は大幅^{おおほば}に見直しがされました。その結果、チューリップはユリ科に残りましたが、オオアマナは別の科に入るようになりました。【理科支援員：宮内】